

豊かな人生の門出を祝って

卒業生・修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。ご家族の皆様には、本日のこの良き日を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、これまで本学の教育に多大なるご支援とご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

4年間、また修了生の方は2年間あるいは3年間、鶴見大学で学んでみていかがでしたでしょうか。入学前は、卒業することがかくも大変だということを想像だにできなかったのではないかと思います。「一心に勉学に励んだ」と胸を張って言える人は少ないかもしれません。でも何も心配ありません。ディプロマポリシーに示された「ものごとを多面的に捉え、深い洞察により世界と自分の関係を正しく認識することができる力」は必ず身についています。

文学で言えば、ある語句が、前後の文脈を踏まえたり、注釈を補ったりすることで、意味が違って見えるということがありますよね。このことは、同じ内容の言葉や行動であっても、時代の文脈や人々の解釈によって、意味や価値が違って見える可能性がある、ということを示唆しています。

「人の命は尊い」という命題は寸分も疑う余地のない揺るぎない真実であるように見えますが、国や大切な人を守るという大義名分の下では戦争さえも容認される場合がある。皆さんよくご存知のとおりです。

戦争とまではいかなくとも、インターネットの世界は、人命を脅かしかねない他者批判で溢れており、その状態が放置され続けています。それらの糾弾は悪事を暴く、あるいは個人や団体の責任を追及するという体裁を取ってはいますが、己れの抱く無力感や無力に対する罪悪感を、他者批判によって軽減しているだけという場合もままあるように思われます。善悪の区別とはそんなに単純なものではない。一つの判断として物の見方を示すことはできても、絶対的な正否を決することは基本的にはできないはずだ。大学における人文学に限らず、高等学校の「国語」も、芥川龍之介の「羅生門」などがわかりやすい例ですが、ずっとそうした問題を提起し続けてきたのでした。

言葉の真の力を知った私たちはもう無力ではない。適切に行使すれば、自由で豊かな世界に住み続けることができる。皆さんには、学びの蓄積の上に築いた知見の灯を絶やさずに、それぞれが良識的と思う判断と行動に従って、静かに叡智の波を広げていってほしいと願っています。

逆に、賢明なあなたが、思慮の浅い人の言動によって、否定されたり、傷つけられたりすることがあるかもしれない。経済的な成長を最重要視する現代社会においては、生産効率や消費活動に寄与する人に価値を認めがちです。一方的にあなたの価値を否定する、あるいは貶め卑しめる言動があったとしても、物事を一面的にしか捉えられない相手の尺度においてそうなのであって、本質的ではない。そう思ってどうぞ傷つかないで下さい。

私も皆さんから多くのことを学びました。特に、他学科の学生さんも含めて、真剣に授業を聞いてくれた人たち、本当にありがとう。今期で学部長を退きますが、皆さんに学位記をお渡しした人間として、元文学部長の名に恥じぬよう、今後も精進して参ります。皆さんのご活躍を祈念すると共に、教室の外で、大人になった皆さんにお目にかかれる日を楽しみにしています。

ご卒業、ご修了、誠におめでとうございます。

令和7年3月14日
文学研究科長・文学部長
新沢 典子

